

ハイリスク妊娠と高齢妊娠

③ 妊娠糖尿病

国立病院機構長崎医療センター産婦人科 安日 一郎

KEY WORDS

- 妊娠糖尿病
- 高齢妊娠
- インスリン抵抗性
- 2型糖尿病
- インスリン分泌不全

はじめに

加齢に伴い糖代謝は劣化する。したがって高齢妊娠は糖代謝異常合併妊娠のハイリスク因子である。2016年の内閣府「平成30年版 少子化社会対策白書」¹⁾によると、日本の平均初産年齢(第1子出産年齢)は30.7歳で、第2子32.6歳、第3子33.6歳となっている。米国では2014年に初産平均年齢が26歳を超えたことが話題となったが²⁾、日本の比ではない。妊娠と糖代謝異常リスクという観点からは、欧米先進国が肥満人口の増大が圧倒的なリスク増加の主因であるのに対し、日本では初産年齢の高年齢化がその主因の1つとなっており、高齢化は肥満の進行の因子でもある。本稿では、糖代謝異常妊娠、特に妊娠糖尿病(gestational diabetes mellitus : GDM)について、主にその病態と疾患概念について概説する。

I. 妊娠中の耐糖能異常の定義と分類(表1)³⁾

妊娠中の糖代謝異常は非妊時とは異なっているため、まず、その定義と分類について表1に示した³⁾。妊娠中の糖代謝異常は、その診断された時期が妊娠前か妊娠中か、糖代謝異常が糖尿病レベルか糖尿病より軽症か、という2つの観点から、糖尿病合併妊娠(pregestational diabetes)、妊娠中の明らかな糖尿病(overt diabetes in pregnancy)、およびGDMに分類される。糖尿病合併妊娠は妊娠前にすでに診断された糖尿病であり、後二者は妊娠中に初めて診断された糖代謝異常である。妊娠中の明らかな糖尿病には、以下のような多彩な糖代謝異常が含まれる。

①妊娠前に発症していたが診断されな
いまま妊娠し、妊娠中に初めて診断
された糖尿病(ほとんどは2型糖尿
病)。

Gestational diabetes mellitus.

Ichiro Yasuhi(部長)